

ジェットロがミャンマーでビジネス開拓ミッション——ミートコンパニオンが和牛肉出展

ジェットロ主催の「ミャンマービジネス開拓ミッション」が8月5日から7日までの3日間、ミャンマー最大の都市・ヤンゴンで行われた。日本からの事業者は36社・46人が参加した。食品関連では、(株)ミートコンパニオンが和牛肉の出展商談会に出展するとともに和牛のマーケットリサーチを目的に参加した。

このミッションは、現地工場見学、ティワラSEZ工場団地建設予定地の見学とミャンマー連邦商工会議所連盟（UMFCCI）共催の商談会で構成。6日にUMFCCI会館のミランガーホールで行われた商談会の開会セレモニーでは、主催者を代表してジェットロの吉村宗一理事が「2万企業以上の企業の集まりであるUMFCCIの協力で安倍首相が5月に『日本ミャンマー経済セミナー』を開催した同じ場所を提供していただき商談会を開催することができた。日本とミャンマーの企業の新たなビジネス展開のきっかけになり、双方にとって有益な機会になることを期待する」とあいさつ。共催者のUMFCCIのマウン・レイ副会頭は「この商談会が政府民間を通しての橋渡しになり、長い間続いた鎖国状態から抜けだしたミャンマーの発展に力を貸してもらいたい」と述べた。

会場には36のブースが設けられ、和牛肉を展示したミートコンパニオンの小間は来場者の関心を集めた。展示商品は和牛4等級のサーロインから商品化したサーロインステーキ用、網焼き用、すき焼き用、しゃぶしゃぶ用、切り落とし（バラエティーカット）など。展示場でスライス・カットされ、綺麗に盛り付けられた商品は、鮮度と霜降りに羨望の目が向けられていた。UMFCCI副会頭も最初に和牛の展示ブースに足を運び、「世界で最高級といわれる和牛肉が食べられるような経済環境になる発展が望まれる」と述べ、和牛肉の見事な霜降りを絶賛したという。

参加したミートコンパニオンの植村光一郎常務執行役員によると、ミャンマーの国別入国者数は、2011年が1位タイ：6万1331人、2位中国：3万5181人、3位マレーシア：2万3286人、韓国：2万2507人、日本：2万1264人



だったのが、2012年にはタイ：9万1817人、日本：4万7501人、中国：4万1542人、米国：3万6476人、韓国：3万4694人となっており、日本人の入国者数は1年間で2倍以上になっている。「ミャンマーにおける日系企業進が活発化しているデータといえる」（植村常務）。

さらに、ジェットロ海外事務所を介して訪れる事業者数は、2012年度は882人で海外事業所の中で1位を記録し、前年度と比べると333%の伸びを示した。特に製造作業員の1ヵ月の基本給は53ドルと中国の6分の1（日経企業アンケート調査：12年10～11月）。加えて、労働力が豊富で3000万人以上、消費市場としてみた場合は6000万人を超える。日本に向けては特恵関税も適用される。地理的には、海に面していることと、5か国と国境を接し、タイとミャンマーの陸路交通網の整備が始まっている、という。

こうしたことから、植村常務は「ミャンマーの力強い開発発展の力強さを感じ、隣のタイとの陸路交通が整備される目途があることなどを含め和牛肉の潜在需要を強く感じた。当社がタイに設立した現地法人（ミートコンパニオン・インターナショナル）を中心とした近隣国への営業展開の先駆けになりそうだ。ヤンゴン市内のマーケットプレイスでは、ミャンマー産豚肉が70円/100g、牛肉が50円/100gという価格帯なので、和牛肉の販売戦略としては日本の食文化や調理方法の情報発信を含めた広報活動が不可欠になるだろう」と話している。